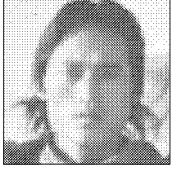
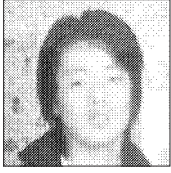




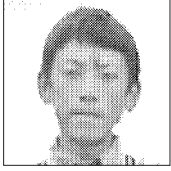
午後7時頃、アムド、ケンロ、ツォエの町中で、政府のチベット政策に抗議する焼身を行った。「ダライ・ラマ法王をチベットへ。パンチェン・リンポチュを解放せよ。チベットには自由が必要だ。言語と宗教の自由を。環境保護を」と叫んだ。遺体は家族の許へ戻され法要が営まれた。



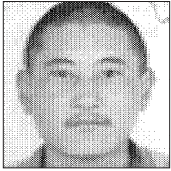
午後2時頃、アムド、ルチュ、サムツァ郷の役場前で中国政府のチベット政策に抗議する焼身を行い、その場で死亡した。長女ドルジェ・キ (7才)、次女ケルサン・ドルマ (3才) の父親。ルチュでは11月22日にタムディン・キャブが、11月26日にはゴンポ・ツェリンが焼身、死亡している。



9才の女兒、6才の男兒の父親。午前9時頃、アムド、ンガバ州ゾゲ県シャクドム郷のガソリンスタンドで焼身抗議を行い、その後バルカムの病院で死亡した。家族に遺体は返されず、遺灰だけが渡された。警察車両を追って行ったチベット人の若者数人も行方不明になっている。



午後3時半頃、アムド、サンチュのボラ僧院近くの路上で焼身抗議。10月20日にラモ・キャブが焼身した同じ場所だった。彼は焼身しながらも頭を壁にぶつけ、血を流していたという。2才の子の父親。



午後7時半頃、ゴロ州ペマ県ペマの中心部にある八葉蓮華のモニュメント近くの路上で焼身抗議。炎に包まれながら両手を合わせ、スローガンを叫びつつ数歩進んで倒れた。焼身前に仲間の僧侶に電話して、チベット人の団結を願う言葉を残した。その夜、彼の焼身に関係したとしてこの地域の指導者やチベット人数人が逮捕された。



午後5時半頃、アムド、ンガバ州、ゾゲのタクツァン・ラモ・キルティ僧院の集会堂前で焼身抗議。彼は炎に包まれながら「ダライ・ラマ法王に長寿を。キルティ・リンポチュをチベットへ。内外のチベット人が再会できますように」と叫んだ。この日はゲルク派の祖師ジェ・ツォンカバの命日である灯明祭の日だった。



午後4時頃、アムド、ルチュのシツァン僧院で中国政府のチベット弾圧に抗議する焼身を行い、その場で死亡した。「ダライ・ラマ法王のチベット帰還を！チベットの土地はチベット人が治めるべきだ！」と叫んでいた。



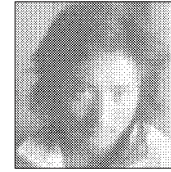
第七学級 (中学1年) の女子学生。午後8時頃、アムド、レブゴン地区ツェコクのドカルモ郷で中国政府のチベット弾圧に抗議するために焼身、その場で死亡した。焼身の前、友人に「私はチベットのために焼身する。役場前で焼身すれば遺体は当局に奪われ、両親の下に帰れないだろうから、この遊牧地で焼身する」と話していた。



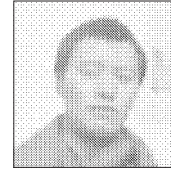
遊牧民。午後1時頃、アムド、サンチュ、アムチヨクの街中で焼身抗議を行った。チベット服を着て体に有刺鉄線を巻きつけていた。焼身の前に仲間に家畜の世話を頼み、町へ出てきていた。家族は伝統的な葬儀を望んだが、当局の強制ですぐに葬儀を行わなければならなかった。VOA (Voice of America) アナウンサーであるツェリン・キの甥。



遊牧民。アムド、ンガバ州。午後3時すぎ頃、ダチェン郷中心部にある警察署前のポログラントで焼身、その場で死亡した。遺体は駆けつけた部隊によって奪われた。5才と3才の二人の娘の父親。彼の父親は吊問者に対して「息子はチベットの正義と自由のために亡くなったのだから、何も後悔していない」と語った。



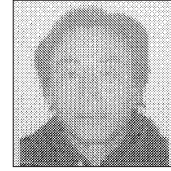
正午頃、アムド、サンチュのボラ僧院の討論場の近くで焼身抗議。生死不明のまま運び去られ、その後死亡が確認された。当局は遺体はサンチュへ送り、集まったチベット人に葬儀を行ってはならないと命令した。人々は「もし、吊問を禁止するのなら、役場前に座り込んで葬儀を行う」と抗議した。一児の父親。無口で控えめな青年だった。



ンガバ・キルティ僧院の僧侶。午前9時頃、アムド、ンガバ州ゾゲ県ゾゲ警察署近くで焼身抗議。2012年9月に警察に連行、2週間にわたって拘束され、僧院へ通うことの禁止、僧侶と名乗るのをやめるよう強要された。解放後も監視下におかれ嫌がらせを受けていた。焼身後、家族は当局により厳しく監視された。



アムド、サンチュ、アムチヨクで政府のチベット弾圧に抗議する焼身を行い、その場で死亡した。6才、4才、1才の3人の子供の父親。この日はチベット暦の正月3日で、チベット独立宣言100周年記念日にあたる。サンチュでは焼身者の遺族、友人らの拘束が続き、焼身者の遺体を家族に届けたチベット人6人に3~12年の刑が宣告されている。



午後6時頃、アムド、サンチュ、アムチヨクの町中で中国政府のチベット弾圧に抗議するために焼身を行った。4人の子供の父親。



午後9時半頃、アムド、ンガバ、ゾゲ県キャンツァ郷で中国政府のチベット弾圧に抗議して、ともに焼身を行い、その場で死亡した。2人は以前、地元と同じ小学校で学んでいた。リンチェンは1年ほど前から青海で働いており、ロサ (正月) の休暇で故郷に帰っていたところだった。

